

TRANSITION TO HEALTH (085)

“ 新型コロナウイルス感染 ⑪ ”

～ ワクチンの副反応・有害事象について ～

はじめに

最近、新型コロナ感染症（COVID-19）の収束の切り札は『ワクチン』である、という趣旨の報道が目立ってきた。治療薬『アビガン』の承認は見送られ、WHO も国も「ワクチンありき」「ワクチンが救世主」とばかりに、「安全性」が懸念される（であろう）ワクチンに期待が集まっている。実は、2009年の「新型（豚）インフルエンザ騒動」の勃発前は、私は無知な医者の一ひとりであった。この時、本気でワクチンについて検索・勉強し、その結果を「健康通信しずおか」で、『ワクチンのすべて①②③』『ワクチンの真相①②③』『風邪・インフルエンザ予防①～⑥』『季節性インフルエンザワクチンは効かない！』『インフルエンザワクチンで免疫力低下』として、14回にわたって当協会の健診センター内に掲示し、また、産業医訪問時には、安全衛生委員会の席で情報提供をし、「ワクチンの危険性」をお伝えしてきた。

ワクチン慎重派・否定派の意見にも耳を傾けよう

テレビの一部の報道番組は、「ワクチンの早期開発」に期待する論調の一点張りで、「ワクチン慎重派・否定派」を「社会防衛に疎い人間」「陰謀論者」であるかの如く論じている。「慎重論」を唱える医師・研究者は、次第にテレビ出演から遠ざけられていった。新聞・テレビなどのマスメディアは、主に広告収入で運営されており、スポンサーに忖度せざるを得ないので、所詮、中立的立場での報道を期待するのは、最初から無理かもしれない。広告収入に頼らない、自費出版される、一部の医師・研究者・ジャーナリストの、命がけの書籍やWebサイトの方が真実を伝えていることが多いと思われる。実際のところ、俗にいわれる「陰謀論」の多くが、実は「事実論・現実論」(FACT)であって、「定説・通説・正論」といわれるものの多くが「マインドコントロールされた陰謀論」(FAKE)であることが多いという現実、20年以上にわたり、幾度となく驚かされてきた。

さて、皆さんはワクチン慎重派ですか、それとも推進派ですか？ 食料品に関しては、産地・成分・添加物にうるさく、「有機」だの「無農薬」だのと気にするのに、いざ、薬（処方薬）となると、その作用機序を知らない、添付文書を読んだことがない、ひどい場合には、薬の名前すら憶えていない。薬の多くは、健康人が飲んだら健康を害する毒物であり、症状を抑えつけ、コントロールしているだけである。最終的に病気を

インフルエンザ・ ワクチン慎重派と推進派の考え方の違い？

ワクチン慎重派(否定派)

- ワクチンでは感染予防も、重症化阻止もできないことを知っている。
- 接種してできる抗体はIgG抗体でありIgA抗体ではないので予防はできない。
- ワクチンの液体成分には、発癌性物質・神経毒・不妊誘発物質などが含まれており、危険である。劇薬である。
- ウイルス感染症予防のため普段から自己免疫力の増強に努めている。

ワクチン推進派

- ワクチンで感染予防はできなくても、重症化の阻止はできるはず。
- 接種してできる抗体は中和抗体であり有効である。IgG、IgAって何？
- ワクチンの液体成分について興味・関心がない。ワクチンの添付文書に目を通したことがない。
- ワクチン接種は自分のためだけでなく人にうつさない・社会防衛義務である。

公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

〒421-0113 静岡市駿河区下川原 6 丁目 8 番 1 号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

http://www.kenshin-shizuoka.net

E-mail:info@kenshin-shizuoka.net

が治るのは、あなた自身の**自然治癒力・免疫力**によるのである。**ワクチン**は「**劇薬**」であり、否応なしに毒物を皮下や筋肉に注入するものである。ワクチン接種が始まる前に、最低でも、薬の添付文書に目を通す習慣を身につけましょう。

政治家・保健機関のトップは「**ワクチンの危険性**」を十分に認識していたのか??

2005年6月、元アメリカ駐日大使キャロライン・ケネディ女史のいとこで弁護士の**ロバート・ケネディ Jr.**氏が、「**Deadly Immunity**」（命がけの予防接種）というレポートを発表し、ワクチン先進国アメリカの多くの人々が、危機感を感じ始めていた。このレポートの中でケネディ氏は、『ワクチンに含まれる**水銀（チメロサル）**が原因で、**自閉症**が**15倍も激増した**』という**決定的な証拠**に対して、当時の科学者・政治家・製薬会社が**隠蔽工作**を行ってきたという事実（FACT）を暴露した。彼は各局テレビに出演して訴え、また、街頭に立ってワクチンの危険性を訴え続けていた。

2009年当時、**オバマ大統領**は、新型（豚）インフルエンザ感染勃発に対して**非常事態を宣言**し、ワクチンの**強制接種**を指示した。ところが、自分の2人の娘には**接種を拒否**させていたことが議会で問題視され、共和党議員に追及されていた。また、子宮頸がんワクチンの**接種も拒否**していると報じられていた。当時の**WHO 事務局長マーガレット・チャン**女史も接種していなかったと報じられていた。このように当時の政治家や保健機関のトップは、もしかしたら「**ワクチンの危険性**」を認識していたのかもしれない。

インフルエンザワクチンの**副反応**について見てみよう

右上の表は、当時から一般的に知られていたインフルエンザワクチンの副反応であり、

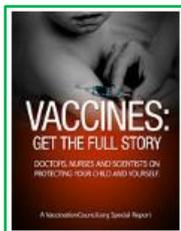
私が安全衛生委員会で使用していたスライドの一つでもある。**アナフィラキシー・ショック**は即時性の副反応で、接種直後の15分～30分以内に発生しうるもので、アドレナリン注射や酸素投与で救命することができる。右下の表は、有精卵を用いてウイルスを培養して作られる「インフルエンザ HA ワクチン」の副反応について、その原因を考察したものである。「アレルギー反応」「急性散在性脳脊髄炎」「ギランバレー症候群」は、例年、副反応報告のあるポピュラーなものである。「**難病**」「**癌**」については、世界中の多くの良心的な医師が指摘してきたものである。（次項参照）

インフルエンザ ワクチンの 重大な副反応 (2009)	
1) アナフィラキシー・ショック	
2) 急性散在性脳脊髄炎 (ADEM)	
3) ギラン・バレー症候群	
4) 痲痺(けいれん)	
5) 肝機能障害、黄疸	
6) 喘息発作	

インフルエンザ・ワクチン 副反応は何故起こるか? (2009)	
原因	副反応
① 異種蛋白(有精卵)を用いて培養する	➔ アレルギー反応
② 有精卵の脳脊髄に分化する成分に対する抗体ができる	➔ 急性散在性脳脊髄炎(ADEM)
③ 有精卵の末梢神経に分化する成分に対する抗体ができる	➔ ギラン・バレー症候群
④ 水銀(不活化するため) … 神経毒 その他の有害物質	➔ 難病 (遅発性・後発性)
⑤ ホルマリン(保存するため)…発癌性 その他の有害物質	➔ 癌 (遅発性・後発性)

ワクチンに関する国際医学協議会『**VACCINE : GET THE FULL STORY**』より

International Medical Council on Vaccination(ワクチンに関する国際医学協議会)が制作したこのレポート(PDF



版 6ページ)は、**勇気をもって86名の医師が署名**したレポートである。このレポートを最初にスクープ記事として、Web サイトに取り上げたのは「**Natural News**」の**Mike Adams**氏であった。(2011.2.1)

その後、このレポートは、為清勝彦氏が渡辺亜矢女史と共に翻訳し、**日本語版「ワクチンのすべて」**としてリリースさ

れた。そのほぼ全文を2013年12月に、3回にわたって、「健康通信しずおか」で詳しく皆さんにお伝えし

た。今回、その内容の一部を2つの表(右)にしたのでご覧下さい。

ワクチンは、健康な人に接種するものであるため、「有効性」よりも「**安全性**」の方が**優先**されるべきである。「安全性」は8~12週間程度では確認しきれない。「**妊孕性**」に対する影響は、数年かけても評価は難しいであろう。「**発癌性**」に関しては、10~20年の観察が必要である。高齢者では自然発生の癌とされるであろう。

おわりに

従来の**ワクチン**の液体成分には、「**発がん性物質**」「**神経毒**」「**不妊誘発物質**」などの**有害物質**が、当たり前前に添加されていた。今回、開発中の「**遺伝子ワクチン**」は、人類が初めて経験する類のワクチンである。① 有害物質が添加されていないこと、② 「**人類の遺伝子組み換え実験**」にならないこと、この2つのことを切に望みます。

ワクチンに関する国際医学協議会編『 VACCINES : GET THE FULL STORY 』より ワクチンの液体成分の毒性・副反応	
ワクチンの液体成分	毒性・副反応(副作用)
① 動物細胞の培養で生じた細菌や野生のウイルス	① 未知の細菌感染症・ウイルス感染症(奇病? 難病?)
② 水銀(チメロサル)	② 神経毒
③ アルミニウム	③ 骨・骨髄・脳の変性
④ 猿、犬の腎臓	④ エイズなどの自己免疫疾患
⑤ 鶏・牛・人間の細胞	⑤ 自己免疫疾患(難病?)
⑥ ホルムアルデヒド(ホルマリン)	⑥ 発癌性物質
⑦ ポリソルベート80	⑦ 女性) 不妊症 男性) 睾丸萎縮
⑧ 豚や牛のゼラチン	⑧ アナフィラキシー(ショック)
⑨ グルタミン酸ナトリウム	⑨ 代謝異常(糖尿病)、神経毒、喘息発作

International Medical Council on Vaccination ワクチンに関する国際医学協議会編(2011)より	
カリフォルニア州、オレゴン州の子供 17,674 名 におけるワクチン接種/未接種の比較調査	
接種/未接種 (%)	
気管支喘息	120% ↑
注意欠陥多動障害	317% ↑↑↑↑
神経疾患	185% ↑↑
自閉症	146% ↑